

# V. 社会的取組み

## 1 組織統治

### ■ 内部統制システム

#### ① 概要

独立行政法人における内部統制とは「中期目標等に基づき法令等を順守しつつ業務を行い、独立行政法人のミッションを有効かつ効率的に果たすため、法人の長が法人の組織内に整備・運用する仕組み」と定義されており、法人は、法令等を順守しつつ業務の適正を確保するための体制を整備することが求められています。JAMSTECでは、内部統制の強化について、業務運営の効率化を図りつつ、組織及び業務における、意思決定プロセス及び責任と裁量権の明確化、コンプライアンスの徹底等を図ることとしています。その際、リスクを把握し、その影響度等を勘案しつつ適切に対応を行う他、法令順守等、内部統制の実効性を高めるため、日頃より職員の意識醸成を行う等の取組みを継続しています。また、内部統制システムが適正に運用されているか、内部監査等により点検を行い、必要に応じ見直すとともに組織運営に反映しています。

#### ② 2022年度の取組み

2022年4月の理事長交代に伴い、2021年度に改正した「コンプライアンス行動規準」について、さらに新理事長の方針

を反映するとともに、新理事長によるコンプライアンスの徹底に関するビデオメッセージを発信しました。また理事長はじめ役員交代を踏まえ、役員及び各部門長、部長等を対象にした外部講師による内部統制・リスクマネジメント研修を実施し、独立行政法人のマネジメントについて、理解の深化と意識の醸成を図りました。

### ■ リスクマネジメント

#### ① 概要

組織の理念に基づく中長期目標、年度目標などの目標の達成を阻害し、望ましくない結果をもたらす危険性や不確実性のことをリスクといいます。リスクには、財務上や研究開発上のリスク、社会規範上のリスクなど、多様なものがあります。リスクマネジメントはこれらのリスクを的確に把握し、低減を図るための仕組みのことをいいます。リスクマネジメントにおいては、どのようなリスクがどこに存在しているかを把握し、リスクが高いものについては対応を行い、定期的にリスクの状況をチェックすることが重要になります。コンプライアンス違反は、JAMSTECの信頼を揺るがしかねない大きなリスクの一つです。JAMSTECにおいては、リスクマネジメントの一環として、コン

### リスクマネジメント基本方針

独立行政法人海洋研究開発機構（以下「機構」という。）は、機構が抱える多様なリスクを的確に把握し、その発生の可能性を低減し、また発生した場合の損失の最小化、早期復旧及び再発防止に努めることにより、機構の事業目的の達成を容易にし、国民の皆様から信頼される組織を目指すこととする。

リスクとは、機構の事業目的の達成を阻害し、望ましくない結果をもたらす危険性や不確実性のことをいう。ここでいうリスクには、安全に係るリスク、研究開発に係るリスク、経営管理に係るリスク等の機構の事業活動に係る全てのリスクを含む。

機構のリスクマネジメント活動は、以下の事項の達成を目標とする。

1. 機構の各事業に相当程度の影響（損失）を与え得るすべてのリスクを発見・特定し、経営レベルで掌握する。
2. 統一的な指標に基づき、各々のリスクが経営に与えるインパクトを客観的に数量化し、対応の優先順位を明確化する。
3. 主要なリスクについて、平常時の対応を主管する組織を明確化する。
4. 主要なリスクについて、各リスクの対応策を整備する。
5. 緊急時の対応について、責任者および対応組織とその権限・責任が明確化され、機構内の指揮命令系統を確立する。
6. 定期的な教育・研修を通じ、全役職員がリスクマネジメントに係る諸規程の内容を熟知する。また、自らの役割を認識し、責任ある的確な行動をとる。

理事長は、機構の最高責任者として、機構のリスクマネジメントを総理する。

機構におけるリスクは、リスクマネジメント規程及び安全管理規程並びにこれらに関連する諸規程に基づき、的確に把握し、対応する。

以上

プライアンス体制を構築しています。

## ②2022年度の取組み

2022年度に選定した優先対応リスクの対応状況をリスクマネジメント委員会にて、体制・ルールが整備され、そのもとで運用が適切に行われていることを確認しました。その上で取組内容を経営者及び執行責任者である各部門長がディスカッションしました。今後も実施状況についてモニタリングしていきます。

また研究活動等における不正行為及び研究費の不正使用の防止に係る教育として、eラーニングによる研修の実施や、英語版のマニュアルの活用及び新規採用者には講義形式による研修も併せて行いました。また、2022年度には改定した「研究費使用ハンドブック～研究開発の効率的な推進のために～（日本語版）」に基づき、職員が研究費を使用する際のその執行方法や手続き、留意すべきポイント等を確認し、職員の意識醸成を図りました。

## ■ コンプライアンス（法令等の順守）

昨今、企業不祥事のみならず、各研究機関においても研

究成果の捏造、改ざん、盗用などの研究不正や研究費の不正使用などの不祥事が続き、改めて、コンプライアンスの重要性がクローズアップされています。コンプライアンスとは、狭義で「法令順守」の意味で理解されることもありますが、明らかな法令違反とは言い切れない不祥事についても対応する必要があることから、JAMSTECにおいては、「法令」に留まらず、「社会規範」の順守までも含むものとして考え、「コンプライアンス行動規準」と「コンプライアンス規程」に基づき、不正・不法行為の未然防止に取り組んでいます。

国立研究開発法人協議会コンプライアンス専門部会は、参加27法人における役職員一人ひとりのコンプライアンス意識を向上させることを目的として、毎年12月を「コンプライアンス推進月間」に設定しています。2022年度は「目を瞑りますか？芽を摘みますか？」をスローガンとして、コンプライアンス推進月間中、コンプライアンスに係る種々のテーマに応じた記事をメールニュースにて配信しました。

なお、JAMSTECの事業活動において関係する環境関連法令の遵守状況は下表のとおりです。

適用を受ける主な環境関係法令	主な規制の内容	遵守状況
エネルギーの使用の合理化に関する法律（省エネ法）	電力などのエネルギーの合理的使用、省エネ	○
国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（グリーン購入法）	環境負荷の少ない物品の調達	○
国等における温室効果ガス等の排出の削減に配慮した契約の推進に関する法律（環境配慮契約法）	環境負荷が少なくなるように工夫した契約	○
環境情報の提供の促進等による特定事業者等の環境に配慮した事業活動の促進に関する法律（環境配慮促進法）	事業活動に係る環境配慮等の状況に関する情報の提供	○
廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃棄物処理法）	産業廃棄物などの適切な処理	○
大気汚染防止法	大気に放出するばい煙等の管理	○
水質汚濁防止法	公共用水域（海域、河川など）へ排出する排水の管理	○
下水道法	下水道に排出する排水の管理	○
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律（PRTR法）	対象となる化学物質の排出量の把握	○
海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律（海洋汚染防止法）	船舶などから海洋への油や廃棄物排出の規制	○
放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律（放射線障害防止法）	放射線障害の防止と放射性同位元素等の適切な管理	○
核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律（原子炉等規制法）	核原料物質、核燃料物質、原子炉の平和利用の確保と、適切な管理及び規制	○
遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律（カルタヘナ法）	組換えDNA実験の適正な実施	○

○：良好 △：指導あり ×：違反あり

## コンプライアンス行動規準

国立研究開発法人海洋研究開発機構は、平和と福祉の理念に基づき、海洋に関する基盤的研究開発、海洋に関する学術研究に関する協力等の業務を総合的に行うことにより、海洋科学技術の水準の向上を図るとともに、学術研究の発展に資することを目的としています。

私たち役職員は、この目的を達成するため、自由闊達に研究活動を繰り広げ、世界をリードする成果を創出し、その活用を通じて社会貢献を果たすべく、一丸となってマネジメント改革に取り組み、組織風土を改善し、健全な組織運営を確保しなければなりません。

この行動規準は、私たちが日々の業務を行っていく中で、法令等を遵守して行動するための基本的な姿勢を定めたものであり、活力あふれる組織運営の基盤となるものです。

「法令等」には、法令だけでなく、機構が定める諸規程や私たちが社会の一員として守るべき社会規範や環境への配慮も含まれます。私たちは、国民の負託を受けて働く者であることを真摯に受け止め、私たちの業務が少しでも社会に役立つよう、高い倫理観と自己規律に基づいて法令等の遵守（「コンプライアンス」とします。）を誠実に実践することを宣言します。

### 1. 私たちは、毎日、誇りと公正な視点、誠実な心を忘れずに仕事に取り組みます。

私たちは、毎日の業務を行うにあたって、法令、諸規程及び社会規範に則り、改めるべきものは改め、誇りと公正さ及び向上心をもって誠実に行動することを誓います。

### 2. 私たちは、公私のけじめは厳として行います。

私たちは、高い倫理観と自己規律に基づいて公私のけじめをつけて行動します。

### 3. 私たちは、情報を適切に取り扱います。

私たちは、法令に則り、情報公開と個人情報保護を適切に行います。

### 4. 私たちは、人権を尊重し、風通しの良い職場環境を作ります。

私たちは、性的差別や嫌がらせなど人権を脅かすような行為に対しては厳しく対処します。同じ職場で働く者の多様な個性を尊重することで、安全かつ安心して能力を発揮できるよう風通しの良い職場環境を作ります。

### 5. 私たちは、地域・社会へ貢献いたします。

私たちが行う海洋に関わる研究開発には、地球温暖化の予測や海溝型巨大地震メカニズムの解明など社会の営みに直接関わりのあるものがあります。私たちは、観測や実験を通じて得られた研究成果を分かりやすく地域・社会に伝えることで、自然災害の防止や社会的不安の緩和に貢献します。

### 6. 私たちは、環境に配慮して行動します。

私たちは、社会の一員として、社会全体に係わる環境問題に関心を持ち、環境に対する負荷を少しでも軽くすることに努力し、協力いたします。

### 7. 私たちは、法令及び諸規程の違反に対しては厳正に対処します。

私たちは、法令及び諸規程の違反を知ったときは、直ちに規程に従った通報を行うとともに、これを是正し、再発防止策を定めます。いかなる理由があろうとも、法令及び諸規程の違反の事実を繕ったり、隠したりしません。法令及び諸規程の違反や事実の隠蔽等に対しては、就業規程等の定めに従い懲戒処分の対象とするなど厳正に対処します。

### 8. 役員は、この行動規準に従って率先垂範いたします。

役員は自ら率先垂範して、マネジメント改革に積極的かつ不断に取り組むとともに、この行動規準に従って行動します。

以上  
令和4年8月1日

国立研究開発法人海洋研究開発機構  
理事長 大和 裕幸

## ■ 情報の管理とセキュリティ

2021年3月に発生した情報セキュリティインシデントの再発防止策として、継続的に情報セキュリティ対策を行いました。また情報セキュリティに関する自己点検や標的型

メール攻撃訓練の実施、情報セキュリティ教育等を引き続き実施することにより、当該インシデントから得られた教訓の共有を図るとともに、サイバー攻撃に対する対応能力の強化に取り組みました。

また、情報セキュリティインシデント対応実施手順等との整合をとった危機管理対応マニュアルの整備も実施しま

した。加えて、BCP（JAMSTEC事業継続計画）などの機構内での周知と内容の浸透を図るために、講習会を実施しました。

## ■ 知的財産権の管理

知的財産権とは、発明や創作によって生み出されたものを、発明・創作した人の財産として一定の期間保護するために設けられた権利です。JAMSTECが我が国のみならず国際的に海洋科学技術の中核的機関として機能していくためには、海洋に関する「知」を不断に創出し、それらを社会経済の発展のために活用されるよう発信していくことが不可欠です。JAMSTECは優れた人材と世界最高水準の技術を併せ持つ世界有数の研究開発能力を有しており、先進的な研究開発成果を知的財産の形で広く公表していくとともに、産業界や他の機関が利用しやすいように、組織を挙げた取組みを進めていくこととしています。JAMSTECでは「知的財産に関する基本的な考え方（知財ポリシー）」を制定し、

- 知的創造サイクルの活用
- 知的財産管理をビルトインした研究開発活動の推進
- 知的財産権の帰属・承継
- 研究成果の社会への還元による社会貢献
- 企業等との連携における透明性の確保

を基本的な考え方として「職務発明等活用規程」を定め、知的財産の創造、保護、管理、活用に積極的に取り組んでいます。

なお、2023年3月末の時点での知的財産の保有数は下の表のとおりです。

### 保有数

	国内	海外
特許	101	85
意匠	1	1
商標	21	0
プログラム著作権登録 <sup>※1</sup>	16	-
ノウハウ <sup>※2</sup>	8	0

※1 SOFTIC（ソフトウェア情報センター）への登録数

※2 企業等に実施許諾等する場合に認定

## ② 労働慣行

### ■ 新たな働き方への取組み

ワークライフバランスの推進及び職員が働きやすい職場環境の整備として、令和5年5月に在宅勤務制度及びフレックスタイム制度の見直しを行いました。在宅勤務制度は主に職場での生産性の維持または向上を図りつつ、育児・介護を含む職員の多様な働き方を認める制度として、常勤職員においては週2日間に上限に制度化しました。1年間の試行期間に職員からの意見も聴取しつつ、引き続き制度改善を進めていきます。一方、フレックスタイム制度においてはコアタイムを短縮し、フレキシブルタイムを拡大することで、職員の多様な働き方を推進しています。これらの働き方改革により、様々なライフステージの職員に多様な職場環境を提供することを可能としています。

また、育児・介護との両立を支援するため、ハンドブックを改訂し職員がこれらの制度を活用できる環境整備を行いました。

船員の職場環境問題を把握し、船員のメンタルヘルスの維持改善することを目的として昨年度導入したオンラインツールにより、船員個人の状況を毎月把握し、その結果を踏まえ、必要に応じて面談を行い、改善策を都度検討・実行しています。

JAMSTECでは事業状況に応じた人員配置、職員の手帳ベース維持のため適切な評価・処遇、職員の能力や

意欲に応じた研修等を組織的に支援することにより個々のキャリア開発、男女共同参画やワークライフバランスを推進し、職員が働きやすく能力を発揮しやすい職場環境を整え、職員一人ひとりの多様で柔軟かつ生産性の高い働き方を推進しています。

### ■ 保健衛生

横須賀本部及び横浜研究所では健康管理室を設け、怪我や病気が生じた際は、常駐の産業保健スタッフが対応に当たっています。また月に6回、産業医による健康相談も行っています。その他にも、法令の定めによる定期健康診断及び特殊健康診断を実施し、職員の健康維持、増進及び管理を行っています。加えて毎事業年度ストレスチェックを実施し、ストレスチェックの結果、高ストレス者と判定された場合は、医師による面接指導のほか、必要に応じて就業上の措置を実施しています。併せて、組織分析結果を所属長に展開することで、ラインケアの強化を図っています。JAMSTECでは、「心の健康づくりのための基本方針」に基づき、職場におけるメンタルヘルス対策に積極的に取り組むものとし、そのガイドラインとして、厚生労働省から発行された指針に基づき、セルフケア、ラインによるケア、機構内スタッフによるケア、外部機関によるケアの4つのケアを中心に、メンタルヘルス不調への対応だ

けでなく、職場でのコミュニケーションの活性化などを含めた広い意味での健康づくりに取り組んでいます。

## ■ ハラスメントの対応

職場における様々なハラスメントは、職員の人としての尊厳を不当に傷つける社会的に許されない行為であるとともに、職員の能力発揮を妨げ、職場秩序を乱し適切な業務遂行の障害となることに繋がります。JAMSTECでは、様々なハラスメントを防止し排除するため、「ハラスメントの防止等に関する規程」を制定しています。ハラスメン

トに関する共通の認識と理解のもとにハラスメントを未然に防止し、快適に働くことができる職場づくりのため、また良好な人間関係を築くため、ハラスメントの防止と啓発に取り組んでいます。今年度は特にハラスメント相談員を拡充し、気軽に相談しやすい環境の整備を進めていくとともに、ハラスメント防止に関する職員の意識向上を目的に全役職員を対象としたアカデミックハラスメントやパワーハラスメントのオンライン研修の実施を予定しています。



# ③ 社会貢献

## ■ 社会貢献の方針

JAMSTECは、海洋・地球環境分野における調査・研究開発を実施し科学技術の進展に貢献していますが、こうした活動の他に社会への直接的な貢献についても、本来業務の一環として積極的に取り組んでいきます。JAMSTECは、社会への貢献として、子供たちをはじめ一般の方々との交流を通じ、海洋や地球についての知識の普及と理解の増進、教育界との連携による人材の育成、さらに産業界との積極的な交流を通じた研究開発成果の産業利用な

どに取り組めます。JAMSTECは、こうした社会貢献への取組みのため、毎年度の総事業費の一定割合（当面1%を考えています）を振り向けるとともに、自らの業務がどのようにしたら社会とつながっていくことができるかを念頭に置いて、職員がそれぞれの業務に従事できるような環境を作っていきます。

JAMSTECが社会貢献に取り組むに当たっての基本方針は、以下のとおりです。

### 1. 通常業務におけるアウトリーチ活動の重視

JAMSTECでは、中期計画の推進のため、より具体的なアクションプランを作成し、その中で各研究プログラムの推進や機構の管理運営に関し、社会へのアウトリーチに向けた目標を示しています。

その実現に向けて、役職員が邁進することが、まず重要であると考えます。

### 2. 社会貢献型事業の実施

次の3つの視点から社会貢献への取り組みを強化します。

#### (1) 科学技術理解増進活動の充実

対話型重視のアウトリーチ活動（普及・啓発活動）を実施します。

海洋・地球科学技術の知識を体系的に提供できるよう努力します。

学校、水族館・科学館、地域等とのネットワークやボランティアの参加を得て、多様な年齢層・社会層における海洋・地球に関する科学技術への関心・知る意欲を高めるための活動を進めます。

#### (2) 人材の育成への寄与

将来この分野に進みたいと思う小・中・高校生が増えるよう、海洋・地球科学技術に接する機会を提供し、夢や期待を育むよう努めます。

大学、産業界、自治体等との連携の下、若い世代の「伸びうる能力」を最大限引き出し、高い専門性を有する研究開発プロフェッショナルを育てます。

#### (3) 成果の活用

研究成果の中で、追加的努力によってすぐに社会に役立つようなものは、社会貢献型事業として重点的に進めます。

成果が広く社会で活用されるよう、知的財産化します。

海溝型地震の即時検知・通報システム等、社会に直接役立つ新技術の開発を進めます。

## 普及広報活動の紹介

「海の日」特別企画『JAMSTEC夏フェス2022』  
海と地球の研究所まるとツアー（オンライン）

海の日である、2022年7月18日にJAMSTECのYouTubeチャンネルとニコニコチャンネルの同時配信による『JAMSTEC夏フェス2022』を開催いたしました。

海の恩恵に感謝するとともに、海洋国日本の繁栄を願う祝日「海の日」（令和4年7月18日）に、機構の取り組みについて広く国民の皆様にご紹介することを目的として、新型コロナウイルスの感染防止対策の徹底のため実施ができなかった施設一般公開の代わりに、機構の施設をオンラインで巡る配信イベント『JAMSTEC夏フェス2022～海と地球の研究所まるとツアー～』を開催しました。

機構の事業所5拠点（横須賀本部、横浜研究所、むつ研究所、高知コア研究所、国際海洋環境情報センター）のレポート中継をリアルタイムで配信。各拠点における施設の見どころをリレー形式で一気に案内するとともに、職員による活動紹介を行うなど、約3万4千人のリアルタイム参加者が楽しめるイベントを実施することができました。

「しんかい6500」整備場内や「地球シミュレータ」マシンルーム、コア保管庫からの実況レポートや、話題の深海魚ヨコヅナイワシの生解説、難問クイズラリーや「深海映像・画像アーカイブス（J-EDI）」映像人気投票といった各企画は好評でした。

## ④ 国際協力・外部機関との連携

### ■ 国際連携とプロジェクトの推進

JAMSTECは、我が国のみならず、国際的な海洋科学技術の中核的機関としてJAMSTEC及び我が国の国際的プレゼンスの向上を図りつつ、地球規模の諸課題の解決に貢献するため、海洋に関する国際協力を推進しています。

#### ① 国連機関への対応、及び海外研究機関との連携等

- 政府間海洋学委員会 (IOC)、全球地球観測システム (GEOSS) 等への貢献
- 海外研究機関との研究開発協力及び交流の促進
- 機構の国際化促進

#### ② 国際深海科学掘削計画 (IODP) の推進

- 国際深海科学掘削計画 (IODP) を推進する地球深部探査船「ちきゅう」の運用
- 「ちきゅう」乗船研究者に対する科学的、技術的支援
- 掘削コア試料の保管・管理・提供及び取得したデータの円滑な提供
- 日本地球掘削科学コンソーシアム (J-DESC) を通じた研究者間コミュニケーションの促進

#### ③ 地球規模課題への対応

- 気候変動、物質循環、生物多様性等の地球規模課題への貢献

### ■ 機関連携及び共同研究による研究協力

JAMSTECでは、研究開発によるイノベーションの創出、社会への成果還元を図るため、国内外の大学、企業、研究機関等と機関連携及び共同研究等の協力関係を構築しています。2022年度については、包括連携協定としては国内31件（前年度31件）、海外20件（前年度21件）、共同研究契約としては国内145件（前年度136件）、海外27件（前年度34件）に基づき、協働を進めました。また、JAMSTECにおける研究開発成果や知的財産を戦略的に活用していくことで、成果の社会還元を着実に推進しています。併せて、国民の海洋科学技術に関する理解増進や異業種との人材交流の推進、将来の海洋科学技術の更なる発展を担う若手人材の育成にも貢献し、知・資金・人材の循環を活性化させることにより、社会とともに新しい価値を創造していきます。このような諸活動を通して、特許等のライセンス、ベンチャー起業、各種コンテンツ化による提供等、個々の活用対象の特性を踏まえ、時宜を得た方法で成果として結実させ、我が国の関連分野の研究開発力の強化へと繋げていきます。

#### 国内機関との共同研究契約件数及び契約相手方機関の推移

名称	2020年度	2021年度	2022年度
共同研究契約（新規課題）	119(41)	136(37)	145(41)
契約相手方機関	161	186	197

注：（ ）内は新規課題数

#### 国際連携とプロジェクト推進に係る2022年度の主な実績

- IOC協力推進委員会（オンライン）及び専門部会（オンライン）を開催し、各専門分野における専門家による意見及び情報交換を行い、第55回IOC執行理事会に向けて我が国政府の対処方針策定に必要な知見を取りまとめた。
- 「持続可能な開発のための国連海洋科学の10年（2021-2030）国連海洋科学の10年」 Ocean Decade Call for Actionについて、プログラム、プロジェクト等への応募を機構内に呼びかけるとともに、持続可能な開発のための海洋科学推進のための方策について検討を行った。
- 令和4年11月に開催された気候変動に関する国際連合枠組条約（United Nations Framework Convention on Climate Change: UNFCCC）/Subsidiary Body for Scientific and Technological Advice (SBSTA) 会合「研究と組織的観測」（Earth Information Day 2022）で、機構からのサブミッショントピックが採択され、機構職員（研究者）1名が「Integrated ocean-observation research by JAMSTEC」についてのポスター発表を行った。
- 第2回「持続可能な開発目標（SDG）14」実施支援・国連会議（第2回国連海洋会議、令和4年6月～7月）に我が国による貢献として4件のボランティアコミットメントを新規登録した。
- G7科学技術大臣会合下の「海洋の未来イニシアチブ」（FSOI）ワーキンググループに関しては、令和4年はドイツでG7 FSOIワーキンググループ会合が開催され（11月29日～30日）、会合のメインテーマである海洋のデジタル・ツインおよび海洋観測強化に対する科学的知見の提供を行う為に機構研究者2名が専門家派遣（文部科学省事業）され、我が国の海洋のデジタル・ツインに関する状況を説明するとともに、海洋観測においてはデータ空白域である深海や極域についての観測強化を提案した。
- 令和4年10月12日に開催された第8回日・南アフリカ科学技術合同委員会（対面とオンラインのハイブリッド）において、機構職員（研究者）2名が参加し、南アフリカリンポポ州における気候変動モデルを利用したマラリア感染分布予測・早期警報システムの実績および穀物予測に向けた取り組み等海洋科学分野における取り組みの現状の確認及び両国の新しい取り組みや今後の展望についての意見交換を行った。
- 機構とIFREMERとは、オンライン上での複数回の会議など、深海観測の日仏協プロジェクトの実現・達成に向けた具体的な検討・協議を通じて、令和5年5月の調査航海が決定し、航海に向けた準備が進められた。
- 欧州海洋研究掘削コンソーシアム (ECORD) が主導するIODP第386次研究航海のパーソナル・サンプリング・パーティを「ちきゅう」船上で実施した。
- J-DESCを通じて以下の取り組みを行い、我が国の国際的なプレゼンスの向上に寄与した。掘削科学についての理解増進を目的とした一般向けシンポジウムの開催に向けて、経費の支援を行った。

## 5 表彰・顕彰

部署名・役職などは当時のものを記載しています。

当機構に所属する職員が次のとおり外部から表彰されました。なお、本報告書では2022年度発表分を一部抜粋して掲載しています。詳細につきましては、ホームページ内の

各研究部門のサイトにて掲載しておりますのでご覧下さい。

褒賞の名称	受賞者（受賞時の役職・所属を記載）
令和4年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者賞	超先鋭研究開発部門超先鋭研究開発プログラム 副主任研究員 北台 紀夫
公益財団法人海洋化学研究所 第37回海洋化学学術賞	地球環境部門地球表層システム研究センター シニアスタッフ 本多 牧生
AGU 2021 Editors' Citation for Excellence in Refereeing – JGR-Atmospheres	地球環境部門大気海洋相互作用研究センター グループリーダー代理・主任研究員 勝保 昌己
土木学会研究業績賞	付加価値情報創生部門 部門長・上席研究員 堀 宗朗
AGU's Outstanding Reviewers of 2021	海域地震火山部門地震発生帯研究センター 主任研究員 利根川 貴志
セルロース学会奨励賞	海洋機能利用部門生物地球化学センター 副主任研究員 磯部 紀之
日本地球化学会奨励賞	海洋機能利用部門生物地球化学センター 研究員 伊左治 雄太
令和4年度防災功労者内閣総理大臣表彰	付加価値情報創生部門 部門長・上席研究員 堀 宗朗
2022年度日本気象学会堀内賞	地球環境部門環境変動予測研究センター グループリーダー代理・副主任研究員 羽島 知洋
2022年度日本気象学会堀内賞	地球環境部門環境変動予測研究センター グループリーダー・主任研究員 建部 洋晶
日本微生物学連盟「野本賞」	超先鋭研究開発部門高知コア研究所 主任研究員 諸野 祐樹
Fellow, Mineralogical Society of America	超先鋭研究開発部門高知コア研究所 主任研究員 富岡 尚敬
海洋調査技術学会第34回研究成果発表会 若手優秀発表賞	研究プラットフォーム運用開発部門技術開発部 技術主任 前田 洋作
Federation of Asia Simulation Societies (ASIASIM) The 21th Asia Simulation Conference Best Paper Finalist Award	付加価値情報創生部門地球情報科学技術センター 副主任研究員 川原 慎太郎
2022年度東京地学協会メダル	アドバイザー 平 朝彦
Research Awards	地球環境部門北極環境変動総合研究センター ポストドクトラル研究員 甘田 岳
ISAR-7 Early career Scientist poster award of Excellence	地球環境部門北極環境変動総合研究センター 研究員 升永 竜介
新学術領域研究「中緯度大気海洋」若手発表賞	地球環境部門環境変動予測研究センター ポストドクトラル研究員 山上 遥航
令和4年度水路技術奨励賞	海洋機能利用部門海底資源センター 技術副主幹 金子 純二
Ocean Science Outstanding Editor	地球環境部門海洋観測研究センター グループリーダー・主任研究員 勝又 勝郎